

ふくおかのふくし

No.

136

2012年11月

—Welfare of Fukuoka—

ねんりん合唱団と久留米児童合唱団の共演による
合唱フェスティバル

第12回
福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

合唱フェスティバル

今号の主な内容

- 特集 平成 24 年福岡県社会福祉大会開催 P 1
誰もが安心して暮らせる地域社会をめざして
- 「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の第一歩として ... P 5
「認知症徘徊自治会搜索模擬訓練」(鎮西地区福祉ネットワーク委員会)
- 平成 24 年度高校生介護等体験特別事業 P 7
- ねんりんピック宮城・仙台 2012 P 8
「伊達の地に実れ！ねんりんいきいきと」
- 福岡から元気を発信!! P 9
第 12 回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭開催
- 災害ボランティアセンターの運営を学ぶ研修会開催 P 11
- 社会福祉施設防災セミナー開催 P 12
- 福岡県共同募金会記事 P 13
 - ・赤い羽根共同募金は障害者の就労を支援します
 - ・歳末たすけあい運動にご協力をお願いします
- シリーズ あなたのまちのまごころ P 15
個性あふれる陶器「耳納焼」(障害者支援施設 耳納学園)

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の
配分金を受けて発行しています。

平成24年福岡県社会福祉大会開催

誰もが安心して暮らせる 地域社会をめざして

福岡県社会福祉協議会、福岡県共同募金会は、去る10月26日（金）に春日市のクローバープラザで「平成24年福岡県社会福祉大会」を開催しました。本大会は、社会福祉を取り巻く昨今の状況を踏まえ、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりのため、改めて社会福祉関係者に求められる基本的な視点を確認するとともに、連帯して課題解決に積極的に取り組んでいく契機として開催し、1,300名余の社会福祉関係者の参加をいただきました。

記念講演

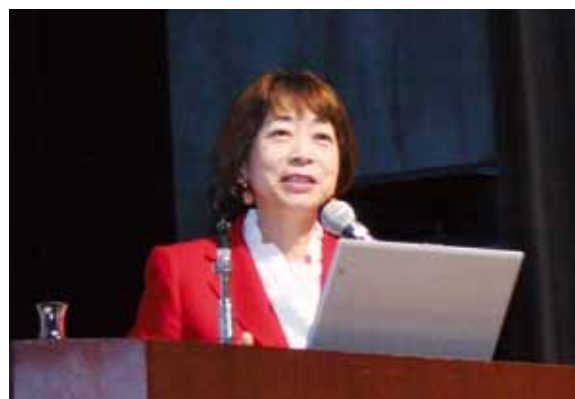
「これからコミュニティづくり ～地域における社会福祉関係者の役割～」

同志社大学院社会学研究科 教授 上野谷 加代子氏

式典に先立ち、同志社大学院社会学研究科教授 上野谷 加代子氏を講師としてお招きし、「これからコミュニティづくり～地域における社会福祉関係者の役割～」と題して記念講演をいただきました。

上野谷先生は、桃山学院大学教授、同大学学部長を経て、同志社大学大学院社会学研究科教授として、地域を基盤としたソーシャルワークの展開方法（論）と教育方法を研究テーマに活躍され、現在は、日本福祉教育・ボランティア学習学会会長、日本地域福祉学会副会長、全国社会福祉協議会全国ボランティア・市民活動振興センター運営委員長等を歴任されています。

講演では講師の様々な経験から地域福祉を取り巻く状況と課題をはじめ、これからのコミュニティづくりをテーマに、社会福祉関係者のそれぞれの役割と今後の展望についてお話しいただきました。



同志社大学院
社会学研究科 教授 上野谷加代子氏

被災地（復興）支援から 学んだまちづくり

私たちは昨年「東日本大震災」を経験しました。被災された方々は災害によって翻弄されておられます。これまでの生活環境を奪われ、自らの人生をつくっていくという主導権

を奪われてしまいました。

復興支援において、私たち社会福祉関係者は、被災者自身が自分の人生を自分でつくっていくという主導権を再獲得しなければ復興にはなりません。ひとりひとりが地域社会の中でその人らしい暮らしをつくっていくことを支援し、後の世代まで続けて支援していくことが重要です。

また、被災者の痛みに寄り添い、生活支援を続けていくことと併せて、刻々と変化するニーズ（必要性）に対応するため、想像力や創造性、開発性、開拓性、さらには交渉・調整機能を発揮し、主人公である被災者・被災地住民を地域で包括的に支援するという災害ソーシャルワークの考え方を持つことが求められます。

これは、平時から社会福祉関係者が「しなくてはならないこと」であり、「していること」でもあります。しかし、今回の災害を契機に、もう一度被災地のおかれた状況に目を向け、被災者の声に耳を傾け忘れないようにしながら、これから先も支援し続ける必要があります。

社会福祉関係者の 「こだわり」とは

社会福祉関係者の「こだわり」
「売り」とは何でしょうか。

私たち社会福祉関係者は、社会福祉法第4条に記載されているとおり、地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければなりません。法律に基づいて地域福祉を推進するにあたり、私たちは、地域における社会生活、



住民（生活者）主体にこだわります。生活課題を抱えている当事者に近づく努力をあらゆる形でやってくることが、社会福祉関係者の「こだわり」であり、「売り」であると考えます。

それから、地域福祉の方法にもこだわっていただきたいと思います。社会福祉関係者は方法にこだわらなから成果を出し、その結果、地域の絆づくり、関係者の縁づくりをすることができます。

また、民間と民間が手をつなぐ「民民協働」をつくることが大切です。地域におけるさまざまな機関が個々に対応するのではなく、協働して生活支援を行うことが求められています。

「コミュニティ再生の 「視点」と「役割」

私は、コミュニティづくりは地域福祉の視点なしには絶対できないと考えます。

地域福祉は、縁（えにし）を起し、育て、伝え、つなぐことであり、行政とも連携しながら、つなが

りを再構築するための基盤づくりをする必要があると考えます。

地域福祉とは、住み慣れた地域社会の中で、家族や近隣の人々、知人、友人などの社会関係を保ち、自らの能力を最大限に発揮し、誰もが自分らしく誇りをもって、家族およびまちの一員として普通の生活を送ることができるような状態をつくることです。

近隣の自然な助け合い・支え合いと、公的サービスとがつながるように、両者を結ぶ生活支援サービスこそ、これからの地域づくりには必要であり、住民参画でつくっていく、さらには、民間事業者も一緒になってつくっていくかなければならないと思います。

社会福祉関係者の皆さんには、技術や方法を駆使し、何よりも実践・活動を通して力を発揮されることを期待いたします。

本大会では、多年にわたって社会福祉の推進に貢献された方々に対して表彰を行いました。
受彰された皆さま、おめでとうございます。

平成24年福岡県社会福祉大会被表彰者

表彰区分		表彰	感謝
県知事表彰		122名	144名
県社会福祉協議会長表彰		274名	3名 21団体
県共同募金会長表彰	会長表彰	19名 11団体	74名 19団体
	優秀地区	15支会	



大会宣言、 実践申し合わせ事項の採択

本大会では、我が国の社会保障分野における制度改正や見直しが進められている中、県内社会福祉関係者の総意をもって、「大会宣言」・「実践申し合わせ事項」を採択しました。

大会宣言

高齢者の所在不明問題や孤立死の増加、後を絶たない児童虐待など、家族間や住民同士の関係の希薄化などを要因とするさまざまな社会問題が発生している現在、社会保障・社会福祉制度の充実だけではなく、地域で支え合う新たな仕組みづくりが求められています。

また、東日本大震災の発生以降、「共助」や「共生」の意味や意義が改めて問い直され、住民同士の「つながり」、「絆」の再構築に向けて官民一体となった取り組みが求められています。

このようなときこそ、社会福祉関係者はこれまでの経験と成果を活かし、その時々の状況に応じた課題に的確に対応していくことで、その存在意義を示すとともに、地域コミュニティづくりの中核として役割を果たすことが重要です。

そこで、私たち社会福祉関係者は、本大会を契機として、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりのために、連帯して課題解決に積極的に取り組んで参ります。

さらに、国及び県・市町村との連携を深め、人と人が共に支え合い、すべての人が安心して暮らすことができる福岡県づくりに、一致団結して取り組むことをここに誓い、宣言します。

実践申し合わせ事項

1 官民一体となった地域福祉の推進

住み慣れた地域で誰もが安心してその人らしく暮らせるよう、住民同士の「つながり」、「絆」の再構築に向け、官民一体となった地域福祉の推進に努めよう。

2 大規模災害への対応強化

昨年の「東日本大震災」、本年7月の「九州北部豪雨災害」など、近年多発している大規模自然災害に備え、日常から関係機関・団体が連携・協働し、地域福祉活動を基盤とした災害対策の充実・強化に努めよう。

併せて、施設・事業所利用者が安心・安全に生活を営めるよう、社会福祉法人・施設・事業所における防災力の向上を図るとともに、被災時の地域の避難拠点機能の充実に努めよう。

3 共同募金運動の取り組み強化

民間の地域福祉活動を財政面から支援する共同募金運動の推進・拡大に努めよう。

4 子ども・子育て支援と

児童虐待防止への対応強化

子どもの最善の利益のために社会全体で子どもを育む保育制度や社会的養護の充実、子育てサポート活動の普及・啓発など、子どもを安心して生み育てられる環境の整備に努めるとともに、児童虐待の未然防止や早期発見・迅速な対応を可能とする関係者の連携強化とその取り組みの強化に努めよう。

5 障害者福祉サービスの充実と

障害者虐待防止への対応強化

障害者が積極的に社会参加し、安心して生活できる地域づくりを推進するため、利用者本位の良質で適切なサービス提供に努めるとともに、障害者虐待の未然防止や早期発見・迅速な対応を可能とする関係者の連携強化とその取り組みの強化に努めよう。

6 介護サービスの充実と

高齢者虐待防止への対応強化

介護を必要としている県民が地域でいつでも安心してサービスを利用できるよう、利用者本位の良質で適切なサービス提供に努めるとともに、高齢者虐待の未然防止や早期発見・迅速な対応を可能とする関係者の連携強化とその取り組みの強化に努めよう。

7 福祉サービスの質の向上と利用者支援の強化

福祉サービスの質の向上を図るため、福祉人材の確保、養成、定着促進に向けた取り組みに努めるとともに、適切なサービス利用を支援するため、日常生活自立支援事業や福祉サービス苦情解決事業、福祉サービス第三者評価事業等の推進に努めよう。

8 心豊かな高齢社会の実現と

生きがい・健康・仲間づくりの推進

県民一人一人が幸福を感じる心豊かな高齢社会の実現に向けた取り組みを推進するとともに、健康づくりや介護予防、仲間づくりを目的としたふれあい・いきいきサロン活動の推進に努めよう。



特別アピールの採択

本大会では、従来の「大会宣言」「実践申し合わせ事項」に加え、次の「特別アピール」が提案・採択され、国民の期待に応え得る社会保障制度・社会福祉制度の実現に向けて取り組みを進めることが確認されました。

この「特別アピール」は、厚生労働大臣、福岡県知事、県内市町村長に本大会会長名で要望いたしました。

特別アピール

現在、我が国では、貧困、虐待、孤立死、DV、ホームレス等、様々な福祉課題・生活課題が噴出している。

このような状況に対応するためには、従来の福祉制度だけではなく、官民一体となった見守り機能の強化、地域福祉を推進するための新たな支え合いの仕組みづくりが、今、強く求められている。

一方で、福祉サービスの質を支えるための福祉・介護職の慢性的な人材不足を解消するための労働条件の確保や専門性を高める研修事業の更なる充実が喫緊の課題である。

このような課題の解決に取り組み、国民が求める社会保障・社会福祉制度を確立し、将来にわたって安定的に運営していくためには、社会保障と税の一体改革が効果的に実行されなければならない。

国及び地方自治体は、地域主権（地方分権）の流れの中で、地域包括ケアシステムの推進、子ども・子育て基盤の再生、障害者総合支援法の施行、生活支援戦略の推進等にあたり、社会福祉関係者の意見を十分に取り入れるとともに、国と地方における権限・財源・責任の明確化を基本とした仕組みづくりを進めていただくよう、県内社会福祉関係者の総意をもって強く要望する。

「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の第一歩として

「認知症徘徊自治会搜索模擬訓練」（鎮西地区福祉ネットワーク委員会）



地域社会で認知症の人とその家族を支援

少子・高齢化に伴う家族形態の変化や住民同士の関係の希薄化による孤立死、虐待の増加など、様々な社会問題が山積している現在、それらの問題を解決するためには、地域住民による、問題の発見や支援、解決に向けた協力が不可欠となっています。

「認知症」の問題も例外ではありません。

厚生労働省の推計によると、認知症の高齢者は300万人を超え、65歳以上の高齢者の10人に1人が認知症という状況です。

認知症は誰がなっても不思議ではない身近な病気です。日常的な見守り活動を基盤として、徘徊等で行方不明になった方をいち早く保護するための体制づくりを行うなど、地域が一体となり、認知症

の人とその家族が安心して暮らせるまちづくりが求められています。

安心で安全な地域のネットワークづくり

飯塚市の鎮西地区福祉ネットワーク委員会では、地域で認知症の人とその家族を支えることを、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の第一歩と位置付け、地域住民が支え合う仕組み作りに取り組まれています。

鎮西地区では年に数件の行方不明問題が発生しており、「認知症支援ハンドブック」の作成・配布、認知症の人やその家族を支えるサポーターの養成講座を開催するなど、認知症に関する理解を広げてきました。

飯塚市社会福祉協議会は、鎮西地区の自治会長や地域の代表者で

構成される鎮西地区福祉ネットワーク委員会が推進する「ほっと安心『徘徊』『駆け込み』SOS ネットワーク」（以下「SOS ネットワーク」）の構築を支援しています。

SOS ネットワークは、実際に徘徊が発生した際、自治会、市役所、社会福祉協議会、警察などの様々な関係機関が連携し、徘徊している方を早期に見つけ、保護するための3層（自治会・校区・市のエリア）のネットワークで、平成20年度から5か年計画でシステムづくりに取り組まれてきました。

去る9月7日、飯塚市鎮西地区で実際に行方不明者が発生したことを想定した現地徘徊模擬訓練が行われました。

当日は、行方不明者の搜索を行うため、実際に使用する行政防災無線による町内放送（搜索協力）や、通行人からの行方不明者の情



徘徊者を想定した聞き取り訓練

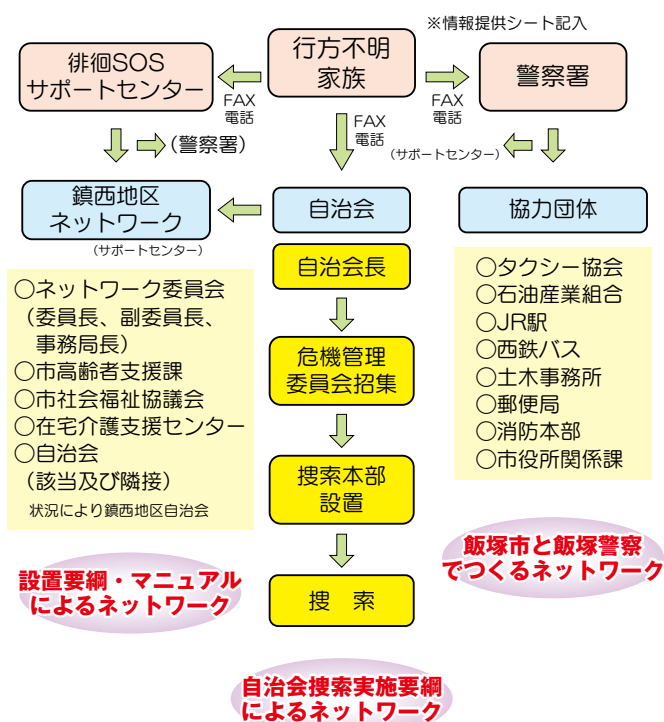


徘徊者発見時のサイン



危険個所の点検

鎮西地区ネットワーク委員会が描く 徘徊SOSネットワーク全体の流れ



※情報提供シート：

行方不明家族が行方不明者の搜索に必要な情報を記入するシート。
氏名や住所に加え、身体的特徴や、行方不明時の服装等を細かく記載する。

報収集など、事故が想定されるため池や林道等の危険個所の点検、行方不明者への声掛けを行いました。「家族の方の不安を解消することはもちろん、認知症の方の気持ちに寄り添うこともとても大切です。行方不明になる方の多くは時間や居場所が分からなくなっており、不安な気持ちに陥っています。発見時には目線を合わせ、やさしく声掛けをするなどの対応を学んできました。」と同委員会の和多八州委員長は、「地元企業

を巻き込み、実効性があり安心できるネットワークを作りたい。地域の連携を助け、孤立死の防止や児童・障害者の支援にもこのネットワークを役立てたい。」と抱負を話されました。

飯塚市社協の藤田博久事務局次長は、「鎮西地区の実践は、認知症の方を支えていく地域づくりのパイロット事業です。今後は『鎮西方式』の波及を図りたいと考えています。」と今後の市社協としての支援方針を話されました。

平成24年度高校生介護等体験特別事業

福祉の心、ボランティアの心を育む

本会では、福祉教育の一環として、高等学校の生徒を対象に、社会福祉に関する体験学習の機会を通して福祉活動への理解と関心を深め、ボランティアや社会連帯の心を育むことを目的に、平成9年度から「高校生介護等体験特別事業」を実施しています。

3か年指定事業の初年度である今年は、新たに、希望が丘高等学校（中間市）と福岡女子商業高等学校（那珂川町）の2校を指定して実施しました。

生徒たちはまず、施設体験の事前研修として、ボランティア活動の基本的な心構えや、高齢者疑似体験、車いす操作の実技訓練など、高齢者の身体状況や介護に関する基礎知識について学び、4日間の施設体験活動に臨みました。

高齢者福祉施設での体験活動では、慣れない状況に戸惑いながらも入所者の方と会話をしたり、施設職員の指導の下、食事配膳や車いすの介助等を行いました。また、活動最終日には、生徒が折り紙や絵などをプレゼントし、入所者の方が大喜びされる場面もありました。

参加した福岡女子商業高等学校3年の辻本明日香さんは、「目の見えない人、体が麻痺している人、認知症の人など、さまざまな人と触れ合いました。私は皆さんとただお話ししているだけなのに、『ありがとう』



福岡女子商業高校の生徒によるレクリエーション（ねむのき）

と何度も言われ、本当に感動しました。」と、学校教育では学ぶことのできない体験ができたようでした。

また、希望が丘高等学校3年の吉田佳生さんは、「将来は施設利用

者の方が笑顔になれるような介護士になりたい。この体験を通して学んだことは、高齢者の方と接するとき、また仕事をしていくうえでも参考にしていきたいと思います」と、将来の夢に一步前進したようでした。

夏休みを使った5日間の体験は、施設訪問だけでは実感できない「現場」を知ることができ、生徒たちのこれから進む道に活かされる貴重なものとなりました。

【問合せ先】

地域福祉部 地域課
☎ 092 (584) 3377

指定高等学校		希望が丘高等学校	那珂川町立 福岡女子商業高等学校
参加生徒数		16名	16名
ボランティア 講座	実施日	7月27日（金）	7月26日（木）
	会場	希望が丘高等学校	福岡女子商業高等学校
施設体験活動	実施日	8月20日（月） 21日（火） 22日（水） 23日（木）	8月9日（木） 23日（木） 28日（火） 30日（木）
	受入施設	特別養護老人ホーム 第2智美園	特別養護老人ホーム ねむのき



高齢者疑似体験をする希望が丘高校の生徒

「伊達の地に 実れ！ ねんりん いきいきと」



福岡県選手団127名が参加！

日頃からスポーツや文化活動を通じて生きがいづくり、健康づくりを実践している全国の元気な高齢者が10月13日から16日までの4日間、宮城県に集い、第25回全国健康福祉祭が開催されました。

宮城県では、昨年3月11日に発生した東日本大震災によって、予定されていた競技会場の一部が壊滅的な被害を受け、一時、大会の開催が危ぶまれました。しかし、宮城県の皆様の「東北の元気な姿や復興への確かな歩みを見てほしい。」との強い思いが開催へと突き動かし、震災前に掲げていた4つの大会目標に加え、「宮城の元気な姿と復興の確かな歩みを全国に発信し、感謝の気持ちを伝える大会」とすることを新たな目標に掲げて開催されることとなりました。

福岡県選手団は、選手・本部役職員合わせて17種目127名が派遣され、10月12日の結団式では、小川洋福岡県知事と平山良明福岡県社会福祉協議会長から激励の言葉が贈られ、選手団は士気も高く福岡県庁を出発しました。仙台市では、多くの大会スタッフやボランティアの方が、笑顔で手を振って歓迎いただき、例年以上に主催者の強い思いが伝わってきました。

仙台市陸上競技場で行われた総合開会式には、全国67選手団約8,000名が元気はつらつと入場行進を行い、交流大会では、福岡県選手団も日頃の練習の成果を十分に発揮し、各地・各種目で熱戦を繰り広げました。

ソフトバレーボールチーム（宮田バイオレット）が第一位グループでブロック優勝し、将棋の個人戦で若山征洋さんや遠山秀男さんがブロック準優勝する等、素晴らしい成績を収め、元気な福岡県を全国にアピールしました。

また、試合での真剣勝負のみならず、全国の参加者との交流を深めることができ、福岡県選手団は、大会テーマとして掲げられた「伊達の地に 実れ！ねんりん いきいきと」を十分に達成することができた大会となりました。



小川洋福岡県知事から
富安節子福岡県選手団団長へ県旗の授与



総合開会式 入場行進

★福岡県選手団の主な成績★

種 目		成 績	備 考
卓 球		優秀賞 ベスト 8	
テ ニ ス		優秀賞 ベスト 16	
ベタンク		高齢者賞	・ 高齢者賞 松崎 吉次 (88 歳)
ゴ ル フ		ブロック第 3 位	【個人戦】 下 蘭 幸勝
なぎなた	個人戦	優秀賞 ブロック第 3 位	・ 大田 ふみよ (ブロック第 3 位) ・ 諸藤 初子 (ブロックベスト 16)
	団体戦 試合競技の部	優秀賞 ベスト 16	
ソフトバレーボール		第 1 位グループ ブロック優勝	・ 高齢者賞 原田 正枝 (78 歳)
将 棋	個人戦	ブロック準優勝	・ 若山 征洋 ・ 遠山 秀男



元気ふくおか宣言（総合開会式）

ねんりんピック宮城・仙台 2012 ソフト
バレーボール出場の有馬利昭さん（左）
となぎなた出場の太田ふみよさん（右）



オープニングアトラクション（城島龍神太鼓）

福岡から 元気を発信!!

第12回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭開催

去る 11 月 17 日・18 日に、久留米市の石橋文化センターで、第 12 回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭のメインイベントを開催しました。

4 月から行われている地区交流大会を含め、年間を通じて多くの方々が、生きがいつくり、健康づくり、仲間づくりに取り組むとともに、世代を超えた交流の輪を着実に広げています。

● 式典・記念講演

17 日に行われた総合開会式では、地元の伝統芸能である城島龍神太鼓が勇壮にオープニングを飾り、式典では、大会実行委員長である平山良明県社協会長の開会宣言の後、大会会長の小川洋県知事が「福岡から元気を発信していきたいと思います。」と力強く挨拶されました。



ねんりんファッションショー

● ファッションショー

毎年、多くの参加者の関心を集めるねんりんファッションショーでは、第 1 部に 18 名もの一般公募のオシャレな高齢者がエントリーされ、自慢のオシャレを披露されました。司会の西田たかのりさんとの軽妙なやりとりにより、会場は大変な盛り上がりとなりました。

記念講演では、キャスターの小倉智昭氏から、「はつらつスポーツ小倉流」と題して自らの体験を基に、はつらつと健康に生きる術を楽しくお話しいただき、観客も大満足でした。

● 屋外イベント

ふれあい市場では、障害者の方々がつくるまごころ製品や、地元久留米市の美味しい食べ物や筑後地方の名産品販売等を行い、大変な賑わいでした。

また、本年 7 月に九州北部を襲った豪雨災害の被災地を応援する「福岡県豪雨災害復興おうえん市場」では、柳川市・八女市・うきは市から特産品や加工品の出張販売コーナーを設置し、多くの方に被災地の「元気」をアピールすることができました。

柳川市からは「うなぎのせいりろ蒸し」、八女市からは「本町 834 サイダー」、うきは市からは「山女の塩焼き」など、それぞれの地元の「美味しい」に、来場者は舌鼓を打っていました。



福岡県豪雨災害復興おうえん市場
うきは市「山女の塩焼き」

だれでも気軽に取り組めるスポーツ・レクリエーション体験コーナーでは、子どもから大人まで元気に体を動かし、交流を深める良い機会となりました。

健康福祉コーナーでは、日頃気になっているメタボ度や、骨密度、肌年齢、脳年齢等を測定し、みんな若さと健康を競い合いました。

地域文化伝承コーナーでは、わら細工や折り紙等の妙技に、多くの子どもたちが興味津々。

その他、三世代交流を目的に開催したアンパンマンショーやふれあい動物園、バルーンアートショーでは、おじいちゃん・おばあちゃんに連れられた小さな子どもたちが大はしゃぎで、笑顔や歓声が絶えませんでした。



スポーツ・レクリエーション体験コーナー

●屋内イベント

応募総数6千点を超える「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクールでは、モデルとなったおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に作者である子どもたちがニッコリと記念撮影。

シニア美術展も7百点余の作品の中から選ばれた受賞者が喜びに満ちた表情で来場されました。

また、今年の合唱フェスティバルはねんりん合唱団に加え、久留米児童合唱団も共演し、会場と一体となった素晴らしいステージを繰り広げてくれました。

この他、70歳現役応援センター出張相談会をはじめ、沢山のイベントを実施し、大変な盛り上がりの中、多くの出会いや感動、笑顔とともに2日間のイベントを閉じることができました。



「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクール

ねんりんスポーツ・文化祭参加者インタビュー

私の元気の秘訣・生きがい



ゲートボール交流大会 最高齢者賞
藤井 貞視 さん (93歳)

私の元気の秘訣は**毎日の練習**です。退職後の趣味ではじめてゲートボールでしたが、30年経った今では、私の生きがいとなっています。仲間と共に汗を流し、笑顔でこれからも頑張ります！



ねんりんファッションショー
一般公募の部 最優秀賞
堤 静子 さん (77歳)

私の元気の秘訣は**オシャレ**です。昔から色彩にこだわったオシャレが大好きで、ねんりんファッションショーへの参加を楽しみにしています。これからもいろいろなファッションにチャレンジしたいです。

ご協力ありがとうございました

第12回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭では、企業からの協賛品を集め、それを景品としたチャリティー福引きを実施し、その収益を福岡県共同募金会に全額寄付いたしました。
協賛いただきました企業の皆さんありがとうございました。

協賛企業一覧

福岡ソフトバンクホークス株式会社 「赤い羽根応援大使」本多雄一選手
財団法人アクロス福岡 株式会社伊藤園 三菱鉛筆九州販売株式会社
大日商事株式会社 Hilton Fukuoka Sea Hawk 博多都ホテル
HOTEL MARITAL SOUSEI Hotel Centraza Hakata 福岡トヨペット株式会社
株式会社N T T ドコモ 福岡県遊技業協同組合 株式会社アサヒコーポレーション
福岡県中小企業共済協同組合 ジャパン福岡・ペプシコーラ販売株式会社
アサヒカルピスビバレッジ株式会社 サッポロ飲料株式会社
久留米ヤクルト販売株式会社

(敬称略、順不同)



災害ボランティアセンターの運営を学ぶ研修会開催

『平成24年7月九州北部豪雨災害』

に学ぶ社協の役割

現場からの実践報告

災害ボランティアセンターを設置した柳川市社協、八女市社協、うきは市社協と応援職員として運営に携わった上毛町社協の4社協から実践報告をいただきました。

柳川市社協からは「サテライトセンターの運営」をテーマに、特に被害が大きかった地区の公民館にサテライトを設置するに至った経緯や運営の状況に触れ、メリット・デメリットを示しながら報告いただきました。

八女市社協からは「災害ボランティアセンター運営の実践」をテーマに、さまざまな記録を塗り替えた豪雨の、降り始めから災害ボランティアセンター設置までの流れ、その後2カ月にも及んだセンター運営の実情について報告いただきました。

うきは市社協からは「関係機関・団体との連携と情報発信」をテーマに、行政との「うきは市災害ボランティアセンター設置・運営に関する

協定」や近隣6社協間の「両筑地区災害時相互支援協定」、市内のボランティア団体や近隣社協等の参加を得て行った「災害ボランティアセンター設置訓練」等、関係機関・団体との日頃の連携や備えが今回の災害で十分に活かされたこと、また、スタッフかわら版による情報共有やホームページ、フェイスブック、ツイッターによる情報発信が効果的に機能したことを報告いただきました。

上毛町社協からは、「応援職員としての参加で見たこと」をテーマに、外部支援者としてセンター運営に関わる中で、各ボランティアセンターでニーズ受付の方法やボランティアの活動範囲の設定、ボランティア送り出しの優先順位等が異なることに注目し、上毛町での災害発生を想定して、地域に合った準備を進めたい、と報告いただきました。

各社協で災害への備えを

実践報告の後は、大規模災害に備えて現在取り組んでいることと今後取り組むべきことについて、グループで熱心な意見交換が行われました。

本会では、災害に関する研修会を継続的に実施し、実践報告やグループ協議で出された課題にすべての市町村社協が迅速・的確に対応できるよう支援するとともに、災害時には市町村社協災害ボランティアセンターの後方支援体制を整備し、本会職員の派遣や県内外からの人的・物的調整が円滑にできるような仕組みづくりを進めていきます。

【問合せ先】

地域福祉部 地域課

☎092(584)3377

今年7月に発生した九州北部豪雨災害により、7月15日(日)から県内6社協(久留米市、柳川市、八女市、筑後市、うきは市、みやま市)に順次災害ボランティアセンターが設置され、関係機関・団体の協力を得ながら延べ10,496名のボランティアをコーディネートするなど復興に向けた活動が展開されました(詳細は本誌増刊号(7月発行)、135号(9月発行)参照)。

9月14日(金)に県内で最後となった八女市災害ボランティアセンターが閉所されたことを受け、本会では、今般の活動を振り返り、災害時に社協に求められる役割や日頃からの備えについて改めて確認するため、去る9月25日(火)に「災害ボランティアセンターの運営を学ぶ研修会」を九州北部豪雨災害での災害ボランティア活動を通じて」を開催しました。



じぶんの町を良くするしくみ
地域で役立てられる共同募金

赤い羽根共同募金は

障害者の就労を支援します

共同募金は、障害のある方の就労支援にも大いに役立っています。

今回紹介する障害者福祉サービス事業所「パン工房こすも」(大野城市)は、今年度、共同募金の配分金で冷蔵庫を購入しました。

「食品を取り扱う事業所なので、冷蔵庫がないと食品の管理ができません。財政的に苦しい時に共同募金の配分を受けられたので、とても助かっています。共同募金を通じて皆さんに支えていただいているお陰で、事業規模も少しずつ広がられています。」と話していただいたのは、理事長の松尾さん。

「パン工房こすも」では現在6名の訓練生がパンやお菓子作り、パンの袋詰め等に従事しており、そのうち1名がパン職人を目指して働いています。

ここでは、それぞれの障害に応じた役割を分担し、昔ながらの製法で作ったこだわりのパンや著名なパティシエ直伝のお菓子が、常時80種

類以上作られています。

地域の皆さんの支えもあり、ボランティア中心だった運営も、昨年度からは職員中心で行えるようになったそうです。注文が多い日は、休憩が14時を過ぎることもあります。全員が黙々と働いているとのこと。



作業を分担し、パンの袋詰め等を行います



お菓子作りの一部は訓練生が担当です



パン工房こすも 松尾理事長

松尾さんは「ここでは、全員が仕事にやりがいや生きがいを見出し、楽しく働いています。家に引きこもっていた子も、ほとんど休まずに出てきます。仕事を通じて社会と関わっていることが、喜びに繋がっているみたいです。もっと事業を大きくし、希望する方が一人

でも働けるよう仲間と共に頑張ります。」と力強く話されました。

障害のある方の中には、働くための環境整備や、使う道具に工夫が必要な場合もあります。

一方、働くことを通して、やりがいを見出すこと、社会とつながること

誰かに必要とされることは、幸せを実現する方法の一つです。

共同募金会では、障害のある方が自分らしく働くためのお手伝いや、仕事を通じて生きがい等を見出してもらえよう、これからも支援を続けていきます。

小麦粉だけを使うこだわりの製法で作ったパンは、味にも自信アリ!!



【問合せ先】

福岡県共同募金会

☎ 092 (584) 3388

誰もが安心して暮らせる社会の実現のために

歳末たすけあい運動にご協力をお願いします 12月1日~31日

今年も12月1日(土)からはじまります

歳末たすけあい運動は、12月1日から1ヵ月間、共同募金運動の一環として全国一斉に取り組まれます。

この運動は、明治39年(1906年)に、大阪毎日新聞が「歳末同情募金」を集めたのが始まりとされており、その後、方面委員(民生委員の前身)が中心となって、全国的に「歳末同情募金」を募り、義援金品の配布を行っていました。

民間の自主的な取り組みがはじまりである本運動は、その精神に基づき、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう様々な活動に活用しています。

現在では、地域の『つながり』を支えるため、下記の活動に活用されています。

地域の『ささえあい』や『たすけあい』を応援する歳末たすけあい運動に、皆様のあたたかいご協力をお願いします。



平成24年度目標額 1億1,572万4,881円

お寄せいただいた募金は・・・

- ◆高齢者の元気づくり・仲間づくりを支える「ふれあい・いきいきサロン活動」
- ◆一人暮らしの高齢者等への「見守り・ひと声訪問活動」
- ◆育児相談や、親子の仲間づくりの場である「子育てサロン活動」
- ◆児童養護施設や母子生活支援施設の子どものための「進学・就職のための準備金」
- ◆学童・生徒が地域の高齢者に年賀状を送る「多世代交流活動」
- ◆地域のお餅つき大会等、多世代が参加する「地域交流事業」

等に活用されています。

“ありがとうメッセージ紹介”



かほの森 渡辺施設長

子どもたちの夢を叶えるために～進学・就職の準備を支援しています～

福岡県社会福祉協議会では、歳末たすけあい運動に寄せられた寄付金を、県内の児童養護施設や母子生活支援施設の子どものための進学・就職のための準備金として配分しています。このお金は、教科書や制服等を購入するための進学費用や、スーツ代や引っ越しに係る費用など、就職して新生活を送るための準備に役立てられています。

母子生活支援施設「かほの森」の利用者も、昨年度この準備金の配分を受けました。

「母子生活支援施設は、食費や光熱費は自己負担です。現在20世帯がここで生活していますが、経済状況はお母さんの収入に大きく左右されており、楽ではありません。進学や就職の準備についても、最低限度の準備しかできない世帯も多くいらっしゃいます。」と渡辺施設長。

昨年度の準備金の使いみちを尋ねると「中学3年生の女子がいる世帯では、子どもが保育士になりたいと強く希望していました。準備金を使って電子キーボードを購入することができ、音楽の勉強に活用し、夢を叶えるための勉強を続けています。歳末たすけあい運動を通じて、多くの皆さんにご支援いただき本当に助かっています。皆さんに支えられ、子どもたちの夢を実現する支援ができています。」

歳末たすけあい募金は、子どもたちの夢を叶えるために、進学・就職のための準備金として大切に活用しています。

耳納焼



自 然に囲まれ、美しい尾根が広がる耳納連山のもとにある

耳納学園では、開園当初から耳納焼の製作に取り組んでいます。

耳納焼には土練機に通した粘り気が強い、良好な粘土を使用します。この粘土でつくる陶器は、他の陶器類と比べ、厚みがあるのが特徴で、土の持つ素朴さの中にも自然の力強さや温もり・優しさを感じることができます。

施設内にある展示販売所には、数十種類の作品が並んでいます。土本来が持つ焼き色に加え、釉薬によって多彩な色に焼き上がったお皿や花瓶など、どれも食卓や生活空間を彩り、楽しませてくれる作品ばかりです。

す。

現在、工房では34名の作り手が作業にあたっています。粘土づくりから陶器の形作り、色付け、焼き、さらには、検品まで行っています。ひとつの作品を作り上げるまでには、作り手が個性や得意分野に合わせ、それぞれの役割・持ち場に分かれ、全員が連携して作業を行っています。作り手の皆さんは、真剣な眼差しで、1つひとつの作業に真剣に取り組んでいます。

作品のデザインや制作を手掛ける越智恵美子さんは「自分の作品がうまく焼きあがった時の感動はたまりません。これからもたくさんの作品を作り、難しい作品にもチャレンジしていきます」と笑顔で話されました。

耳

納焼の作陶段階で最も重要なのは「焼き加減」と話すのは開所当初から制作指導を担当する職員の吉永さん。「日によって変わる気温や湿度、火力に注意を払いながら、作品を火に入れる時間を調節しなければなりません」と話され



個性あふれる作品づくりに取り組む 作り手の皆さん



ました。長年の熟練された技も作品づくりには欠かせません。

耳納学園では、焼き物の他にも廃油・牛乳パックを利用した、石鹸や手すきの葉書など、手工芸品の作成も行っています。またTシャツなどの衣類への文字プリントなど新しい



作品づくりに熱心な越智恵美子さん

取り組みにも着手しました。

現在は、来年1月に、久留米市のゆめタウンで開催する展示販売会に向けて作品づくりに大忙しです。耳納学園の自慢のまごころ製品が並びます。

まごころ製品情報



社会福祉法人 ゆうかり学園 障害者支援施設 耳納学園

障害者支援施設「耳納学園」は、昭和47年4月に重度身体障害者授産施設として開園しました。現在34名の方が毎日、陶器制作や手工芸品づくりに励んでいます。

施設の基本理念である「利用者の心を尊重し、感謝と共生、そして福祉の心で接します」をスローガンとし、利用者本位の施設づくりを進めています。

耳納学園では作品販売や久留米市やうきは市での出張陶芸教室を行っています。詳細は下記のホームでご覧いただけます。

耳納学園ホームページ

(http://www.yuukari.or.jp/facility_minou.html)

問合せ先

〒839-1212 福岡県久留米市田主丸町石垣1203番地の1

☎0943 (72) 2743

FAX 0943 (73) 2135

まごころ製品とは・・・

福岡県では、障害者施設で製造(栽培)される食品や縫製品など、障害者の皆さんがまごころを込めて作った製品や提供しているサービスを「まごころ製品」と呼んでいます。障害者の皆さんが、「自立」を目指し、それぞれのアイデアや工夫、作り手の個性を活かした製品づくりに一生懸命取り組んでいます。本誌では今後も「まごころ製品」を紹介してまいります。

全国のまごころ製品が福岡に大集合!!

「全国ナイスハートバザールin福岡」開催

全国の社会就労センターでは、身体・知的・精神に障害のある方々の就労支援を通して、障害者の自立と社会参加を目指し、多方面にわたる職種の開拓や自主製品の開発及び販売活動の事業を行い、その振興に積極的に取り組んでいます。

このバザールは、その事業振興の一環で、福岡県内を中心として全国の社会就労センター（障害者就労支援事業所等）で生産・製造された製品を展示販売し、販路の拡大・障害者の工賃水準の向上を図ると共に、広く県民の理解を深めていただき、日常的な支援・協力を得られることの実現を目的としています。

当日は、障害者の方々がまごころ込めて作った、焼き菓子やパン、木工製品、縫製品等を販売いたします。

また、日替りステージも予定していますので、ぜひ、ご来場お待ちしております！



10月に開催された全国ナイスハートバザールinおさかの様子

【期日等】

平成25年 **1月23日(水)～27日(日)**
10時から20時まで

【会場】

福岡三越 9階催物会場

(福岡市中央区天神2-1-1 ☎092-724-3111)

県内福祉施設に車いす65台を寄贈

福岡トヨペット車いす贈呈式



福岡トヨペット(株) 平野 寛三 専務取締役(右)
平山 良明 県社協会長(左)

本会は、福岡トヨペット株式会社様から寄贈いただいた車いす 65 台を県内の 65 施設へ配分しました。

この車いすは、同社が創業以来新車累計販売 60 万台を達成したことを記念し、社会貢献の一環として平成 19 年からこれまでに 211 台の車いすを寄贈いただいているもので、車いすの購入費用は同社社員の積立による「福岡トヨペット社会福祉基金」から半額を拠出されたものです。

去る 10 月 26 日開催の平成 24 年福岡県社会福祉大会の中で行った贈呈式では、福岡トヨペット(株)平野寛三専務取締役から目録が贈呈され、本会から感謝状を贈りました。

福岡トヨペット株式会社様ありがとうございました

福岡県内の子育て支援のために

NTTドコモ、モバイル・コミュニケーション・ファンド寄付金贈呈式

NTT ドコモグループ 9 社では社会貢献活動を行うため、NPO 法人モバイルコミュニケーション・ファンド (MC 基金) を平成 14 年に設立され、全国 47 都道府県の社会福祉協議会にご寄付をいただいております。本年も NTT ドコモ様、NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド (MC 基金) 様からご寄付をいただくこととなり、去る 9 月 25 日の贈呈式では NTT ドコモ坪井治福岡支店長から目録を贈呈いただきました。

お寄せいただいた浄財は、県内の子育てサロン活動・子育て支援事業の活動等に有効に活用させていただきます。

NTT ドコモ様、NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様ありがとうございました。



NTT ドコモ 坪井 治 福岡支店長(左)
富安 節子 県社協常務理事(右)

Q 不要なリフォーム工事を受け、ローンが払えない ～高齢者世帯を狙ったリフォーム詐欺とその解決法～【相談者：75歳男性】

軽度の認知症の妻（71歳）が、家族の相談なしに、屋根修理工事の契約をしてしまい、リフォーム費用として、現在300万円のローンを支払っています。

これまで、兄弟の支援もあり、毎月4万円を1年間支払ってきました。しかし、現在は兄弟の支援も無くなり、妻と私の年金を合わせても数万円ほどで生活が苦しく、とても支払うことが困難な状況です。

今考えると、修理をする前から雨漏りもなく、工事自体が不要だったと思います。何か良い解決方法はないのでしょうか。

A 契約がおかしいと思ったら、まず相談を！！

リフォーム工事をする必要もないのに、虚偽の事実を伝え、材料費や工事費などの名目で現金を騙し取る、リフォーム詐欺が多発しており、社会問題となっています。

屋根の修理や耐震補強、白アリ駆除、床下換気扇から火災報知機など、必要もないのにもっともらしい理由を告げて工事をさせたり、多額の工事代金を請求したりするケースもあり、相談は年々増えています。

契約書面を受領してから8日間以内であれば、クーリング・オフ制度を利用して無条件に契約を解約することができますが、今回の相談者のケースは、すでに1年を経過しているので難しいでしょう。

しかし、不要な工事を、必要だといわれて契約したのであれば、民法96条の「詐欺」として、契約の取り消しができる場合があります。契約を取り消せば、残りのローンを支払う必要もなく、これまで支払ったお金の返還を請求することも考えられます。

一度、詐欺被害にあうと、次々と業者が現れて狙われることもあります。今後の被害を防止するために、成年後見制度を利用して、本人の財産管理を誰かに頼んでおいた方がよいかもしれません。

「契約がおかしい」と思ったら、まず消費者センターや弁護士に相談することをお勧めします。

福岡県弁護士会では、県内に19の法律相談センターを設置して、弁護士がいろいろな法律相談に応じています。

お近くの法律相談センターにご相談ください。

福岡県弁護士会法律相談センター

ナビダイヤルのご案内 ☎ 0570 (783) 552

ご希望の地区にお繋するサービスです。ガイダンスに従いご希望の地区をお選びください。ガイダンスの途中でも操作は可能です。
福岡地区【1】、北九州地区【2】、筑後地区【3】、筑豊地区【4】を押してください

法律相談のご案内

福岡県弁護士会の弁護士が金銭貸借、悪徳商法、遺産相続など法律にかかる相談を無料でお受けいたします。

- 相談場所 クローバープラザ 東棟4階（〒816-0804 春日市原町3丁目1-7）
- 相談日 毎週水曜日
- 相談時間 13:00～16:00（予約制）

問合せ先 福岡県社会福祉協議会 県民サービス部 評価・相談課 ☎ 092 (584) 3344

全国200万人加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

Aプランで
死亡1,400万円
入院7,000円、通院4,100円
賠償責任5億円(限度額)
を補償

活動場所と自宅
との往復途上の
事故も補償

ボランティア活動
のための
学習会・会議など
での事故も補償

ボランティア自身の
食中毒・熱中症・
特定感染症もOK



	基本タイプ	天災タイプ
年間保険料	Aプラン 280円 Bプラン 420円	490円 720円

◇天災タイプは基本タイプ+地震・噴火・津波を補償

*各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

ボランティア行事用保険

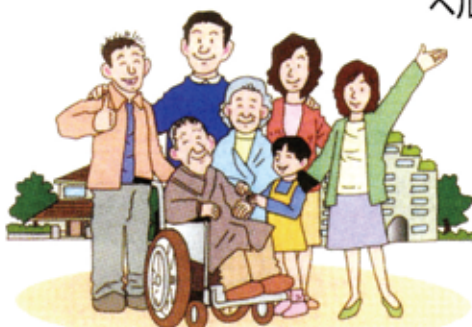
地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者(個人)を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 地域福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など



送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したプラン

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霧が関3丁目3番2号 新霧が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

TEL:03(3231)7545